

本当の気遣い

富岡市立南中学校

三年 関口 こはく

「あの、ちょっと手伝ってもらえないかい。」

友人と家へ帰る途中、近所のおばあさんにその声をかけられました。特に断る理由もなかった私は、「いいですよ。」と一言。おばあさんは腰が悪かったらしく歩くことも大変そうでしたが、その時はあまり気にもとめず、頼まれた通り野菜を運びました。運び終わり、友人と帰ろうとした時、ドンツと大きな音が。おばあさんが転んでしまったのです。あまりに驚いた私は、動きがストップ。そして数秒後。

「大丈夫ですか。」

と声をかけて立たせてあげました。するとおばあさんは、助けた私に対して「ありがとう」ととても感謝してくださいました。

「お礼をしたいからちょっと待ってて。」

と言い、再び歩きだそうとしたおばあさん。ドンツという音。また、転んでしまったのです。私が立たせてあげようと近づくと、

「ごめんね。今日は家でも転んでばかりだったんだよ。」

と言われました。その一言に、違和感を抱きつつも、あまり心配することなく何となく手伝いました。しかし、今度はうまく立てないようでした。そんな状況でもおばあさんは私達にお礼をしたいと、這ってまでお菓子を取ってきてくださいました。そして、私達二人は、最後まで感謝されながら家へ帰りました。

みなさんは、この話を聴いてどう思いましたか。学生二人がおばあさんを助けた良い話だと感じたでしょうか。私はこのときの自分の行動に後悔がたくさんあります。

家へ帰る途中、そして家へ着いた後もずっと、心の中は霧がかかったようにぱっとせず、居心地の悪い感じだけが私の心の中にありました。この気持ちがある

なのか、このときはよく分かっています。私の頭の中では。でも、心の中ではもう気付いていたのです。自分の「後悔」に。おばあさんをお願いされた時、特に断る理由もないからではなく、当たり前のこととして手伝えれば良かった。おばあさんが転んでしまった時、驚きで動きが止まった私は、とっさに手を差しのべることができなかった。そして、おばあさんをのこしてすぐに帰らず、最後まで心配するべきだった。もし、またおばあさんが転んでしまったらどうしよう。立てなくて困っているかもしれない……。私の行動は、感謝されるようなことではないのです。感謝されるべきことは何一つないのです。私はおばあさんからももらったお菓子をありがとうございました。

みんなから感謝される行動とは何だろう。それは、「自分から」動くこと。どんな出来事にも的確な判断をすること。この二つをどちらも欠かさず、すばやく行うことだと思います。

考えてみると、私は一つの物事に対して考え込んでしまい、自分から意見を出すことができず、行動する

より先に頭で考えてしまいます。今回の体験でも、この自分の性格の嫌いなところが出て、後悔がたくさん生まれてしまいました。あのおばあさんとの出来事できなかった「自分から」が頭から離れず、何度も何度も悩んだ末、私は「自分から」ある挑戦をすることにしました。生徒会本部役員に立候補したのです。不安もありましたが、心を決め、私にあのときできなかった「自分から」に違う形であれチャレンジしてみました。今は生徒会本部役員として精一杯仕事をしています。

「本当の気遣い」とは何か。私は、自分からの確な判断をし、すばやく行動することであると考えます。そう思っているけれど、私にはまでできていません。感謝される資格のある人間になれるよう、「頭で考えること」と「すぐ行動すること」をうまく使い分けられるようにします。

今度こそは、自分が心から人の役に立てたと思えるように。